

# 令和7年度第4回岡山市協働推進委員会次第

令和8年2月10日(火)14:00～16:00

勤労者福祉センター5階体育集会室

## 1 開 会

## 2 報 告

令和6年度市民協働推進事業の結果

## 3 議 事

(1) 令和8年度岡山市市民協働推進事業の審査

- ・審査方法
- ・提案事業のプレゼンテーション 各15分
- ・質疑応答 各10分
- ・採点 各5分
- ・全体審議 10分

(2) 第3次岡山市協働推進計画(案)について

## 4 その他

## 5 閉 会

# 令和6年度市民協働推進事業一覧

資料1ー1

事業名		提案団体	協働部署	令和7年度の方
1	イベントによって発生する ごみ削減に向けたサポート事業 【NPO提案】【継続】	特定非営利活動法人 タブララサ	環境事業課	団体の自主事業化
2	マンション管理をサポートする 団体の裾野を広げるための連携事業 「災害リスクをチェックし、自身の マンションをより詳しく知る取り組み」 【行政提案】【継続】	一般社団法人 岡山県建築士会	住宅課	担当課で一般施策化
3	岡山空襲を知ろう伝えようプロジェクト 【行政提案】【新規】	平和推進岡山市民 協議会	福祉援護課	市民協働推進事業継続

## イベントによって発生するごみ削減に向けたサポート事業

●課題：イベント時に発生するごみについて環境配慮への関心は高まる一方、実際に取組がなかなかできていない。

### ●主な成果と今後の対応

目標	主な実施内容	成果	今後の対応
エコイベント認証制度の確立	◎イベントの直接サポート 3件程度のイベントごみ削減に向けたサポート。内容は岡山市エコイベント認証制度で想定するプランを基本とする。 事前打合せ～当日イベント補助の対応をすることで取組みを制度導入するための準備などのサポートを行う。	・イベントサポート済件数：9件/10件 ・イベント当日の補助と共にイベント事業者へ聞き取り調査も実施した、サポートを受けた関係者は「ごみ削減に向けた取組には負担感を感じられなかった」と回答を得られたが、サポートが書類などの申請が必要となれば申請への作業量と事業者が負担する金額によると回答が得られた。	エコイベントに興味を持った事業者などへは実施に向けての案内や協働事業で得られたノウハウを活用したサポートの実施。
	◎コンテンツ、ノウハウ情報発信 主に岡山市内で環境配慮の取組導入を検討するイベント実施者を対象にした情報提供。イベント実施者が環境に配慮した取組が参照できるようにHP上での発信とリーフレットの作成、配布を行う。	・イベントからごみを減らす取組ないしは直接サポートプランについて自団体HPにて掲載した。 ・イベントの直接サポートの事例を含めたリーフレットを作成した。	イベントからごみを減らす取組に関心を寄せるイベント関係者などへ配布し広めていく。
	◎認証制度の事業化に向けた制度構築 先行事例実施地域への視察/聞き取りを実施し、岡山市での事業実施内容に反映。 チェックリストや申請様式、申請全体の流れなどを構築し、制度の一般施策化を目指す。	・当初は「エコイベント認証制度」を構築、事業化を目指し協議を重ねていたが、「イベントからごみを減らす取組の委託事業」と「リユース食器の利用を促進する事業」の事業化へと変更し、一般施策化へ進めていたものの、事業化へとはならなかった。	

### ●事業の経過と協働の状況

岡山市でエコイベント実施に関する制度についてイベント主催者たちと共有、意見交換をすることができ、期待と懸案を知る機会となった。また自団体だけでは取り組むことができず、一方で行政主導でも踏みにくい部分の課題を市民とともに問題提起ができました。

#### 【事業の結果】

認証制度が一般施策化とはならなかったものの、ここまでに取り組んできた活動の周知と新規活動への展開を具現化するため、環境分野の展示参加や企業協賛の案内を実施し、周知とイベントサポート協力事業を得るための活動を継続的に実施します。



イベントごみ削減ガイドの発行

マンション管理をサポートする団体の裾野を広げるための連携事業「災害リスクをチェックし、自身のマンションをより詳しく知る取り組み」

●課題：マンションの高経年化と高齢化に対応するための居住者コミュニティと専門家の支援体制をつくる

### ●主な成果と今後の対応

目標	主な実施内容	成果	今後の対応
本事業に参加した住民の意識変化を促す。	前年度に続き、市内2か所のマンションで「災害リスク研修」と「探検ツアー」を実施した。アンケートにより参加前後の住民の意識変化を測定した。	参加者の85%が「居住者名簿の重要性を理解できた」と回答し、100%が「居住者名簿を作成したい」と回答した。	引き続き、市内マンションへ波及していく。
市内全域のマンションへ応用可能な仕組み(制度)が完成している。	「探検ツアー」を既存の専門家派遣制度の新たなメニューに追加する。	令和8年度より「マンション探検ツアー」を事業化予定。(「災害リスク研修」は実施団体の自主事業としてすでに実施中。)	一般施策・自主事業として継続。
居住者自身による適正管理を促進するツール(冊子)が完成している。	事業の成果や市の統計情報などをもとに「マンション防災 ～はじめの手引き～」を作成する。完成後、市内のマンションに配布する。	約30ページに及ぶ手引きが完成。居住者同士のコミュニティ形成を促進するツールとして配布する。	令和7年度より配布開始。
マンション管理をサポートする団体が増加している。	事業実施主体のほか、「要配慮者の個別避難計画策定」など、福祉領域の専門性を有する団体との連携のきっかけとする。	(公社)岡山県社会福祉士会の新たな参画が決定した。	具体的な役割分担や共同事業の実施を模索していく。
事業実施マンションにおいて組合員名簿・居住者名簿が作成されている。	マンション居住者の意識変化を具体的なアクションにつなげる。(名簿作成をサポートする。)	令和5年度に事業を実施した幡多小学校区のマンションにて、居住者名簿が作成され、岡山市マンション管理計画認定制度の認定を受けた。	引き続き、啓発・サポートする。

### ●事業の経過と協働の状況

スケジュール面では当初計画より多少の遅れが生じたものの、それ以外は概ね想定どおりに進捗し、前年度に引き続き、実施団体と担当部署それぞれの持つ経験・資源が存分に生かされた事業となりました。

#### 【事業の結果】一般施策化など

「マンション探検ツアー」が専門家派遣制度の新たなメニューに追加されるほか、「マンション防災 ～はじめの手引き～」が完成するなど、事業開始時から掲げていた目標を概ね達成することができました。マンション自治に対する認知・理解は決して高いとは言えず、防災の取組みも十分ではありませんが、この事業の成果が多くのマンションのモデルとなって市内全域のマンションに影響を及ぼすことを期待しています。



# 岡山空襲を知ろう伝えようプロジェクト

●課題：岡山空襲展示室は常時開館しているが、見学予約時以外は展示室内を解説する職員が不在。  
大人数の見学受入が困難。入場者数は増えておらず、学校の活用もごく一部。

## ●主な成果と今後の対応

目標	主な実施内容	成果	今後の対応
岡山空襲展示室の「ボランティアガイド」を養成し、設置する。	令和6年度のボランティアガイド(1期生)のメンバーを構築した。	1期メンバーは実施団体会員とそれ以外にプロジェクトの趣旨に賛同した会員外を含め21名となった。	岡山空襲展示室でのボランティアガイドデビューにむけての準備
	ボランティアガイド養成講座を6回開催した。講座に出席できなかった受講者については、補講講座を4回開催した。第6回目の講座では学芸員の解説をもとに「ボランティアガイド用マニュアル」「展示物説明書」を作成した。	・ボランティアガイドの講師として空襲展示室の学芸員や元社会科の教員を迎え、岡山空襲への歴史、知識を習得した。 ・養成講座に出席できなかった受講者については講座内容を予め録画し、動画による自主学習をしてもらうことでそれぞれの理解度に差ができないよう配慮を行った。	
	空襲展示室でガイドマニュアルを利用しながら実践練習を5回開催した	・マニュアルと展示物説明書を作成したことで、実際のボランティアガイドを想定した練習を実施できた。	
ガイドの内容・範囲、募集対象者、広報、運営方針を検討していく	空襲展示室前で認知調査とアンケート調査を実施した。	状況調査と施設見学をもとに協議し、活動時期はシティーミュージアムへの来館者が多い土日のみを活動日とし、「10時～12時、13時～15時」で2～3名の複数体制で活動することとした。	各人月1～2回程度でボランティアのシフト表を作成し、シフト表に沿って活動。
	岡山空襲展示室と近い運営をしている他県の施設見学を実施した。		
	次年度からのボランティア募集対象は多様な世代や目的を持つ市民が受講可能な仕組みについて協議した。	2期からの受講対象者をガイド希望以外に学び目的の人も受入れることにより、岡山空襲や展示室の認知が広がると期待する。	ボランティア2期生募集のチラシ作成、広報活動

●事業の経過と協働の状況  
養成講座受講から空襲展示室のガイドデビューまでの講座の運営方法やマニュアルの作成・確認、会場手配など、団体と行政がそれぞれの役割を持ち、定期的な見直しと検討を継続されています。両者が協議を重ねることでよりブラッシュアップされたノウハウの完成に期待されます。

【令和7年度の目標】  
・ボランティアガイド1期生による岡山空襲展示室のガイドの実施  
・2期生の募集と養成講座の実施  
1期生はガイド活動を軌道にのせてゆき、2期生の募集対象としてはガイドのみならず学習目的での参加も可能とすることで、若い世代も取り込み、幅広い年代に周知しながら、岡山空襲展示室が広く知られ、より利活用されることにより、平和の尊さを次世代に継承する人物の増加を目指します。



## 令和8年度岡山市市民協働推進事業 提案概要

事業 番号	提案団体	事業名/事業内容	事業の目標	事業終了後
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人 ぐるーん</li> <li>・地域子育て支援課</li> </ul>	<p><b>ホームスタート事業(家庭訪問型子育て支援事業)</b></p> <p>住民参加型の訪問型子育て支援事業で、一般市民による親子支援を仕組化し、不足する支援リソースを迅速に補う。また、子育ての孤立化を防止し、地域で子育てを支えるまちづくりを進める。</p> <p>①支援者(オーガナイザー・ホームビジター)の養成 ②広報用ウェブページの作成、リーフレットの作成・配布、メディアへの働きかけによる周知活動の実施</p>	<p>①ホームスタート事業利用者数の拡大を目指す ②支援者(オーガナイザー2名・ホームビジター10名)を養成する</p>	自主事業を予定
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・The World Kitchen 実行委員会</li> <li>・人権推進課</li> </ul>	<p><b>The World Kitchen ～多様性の輪を広げ、誰もが住みやすいまちづくりを～</b></p> <p>食やワークショップ、ステージ企画などを通じて参加者の意識や寛容性に変化し、多文化交流の輪を広げ多様性への理解を深める。</p> <p>①世界各国の料理を提供する飲食店・団体の出店、世界各国の歌やダンスが楽しめるステージパフォーマンス、英語をつかった交流や文化理解ができるワークショップを実施する、多文化交流フードイベント「The World Kitchen」の開催 ②その国にルーツがあるゲストを招いて一緒に伝統料理を作りながら文化交流をする「Mini The World Kitchen」の開催 ③世界各国の料理を食べながら対話をする「コミュニティランチ」の開催 ④人権フェスティバルへの出展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・The World Kitchenに参加する人を増やしていく中で、外国人とともに誰もが主役になれるまちづくりを目指す</li> <li>・岡山市内の他の大学や地域にThe World Kitchenの拠点を増やし自走化することで、各地域でMini The World Kitchen や、コミュニティランチを開催できるようにする</li> </ul>	自主事業を予定



## 第3次岡山市協働推進計画（概要）

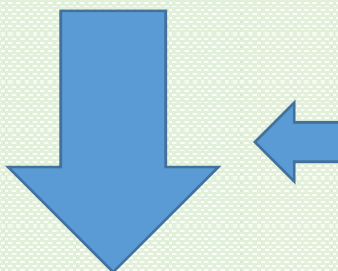
### 【計画期間】 案P2

- 令和8年度から12年度の5年間。ただし、社会情勢や進捗状況などを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。

### 【第2次協働推進計画における課題】 案P16

- **担い手不足への対策**・・・若者や企業等が地域活動へ参加しやすい環境づくりを進める必要がある。
- **多様な主体のつながりの創出**・・・行政、住民、NPO、企業等が地域課題を共有し、解決に向けた取組を行う必要がある。
- **情報発信**・・・協働した取り組みについて市民の興味や関心を引くコンテンツやサービスの充実を図る必要がある。

### 【踏まえるべき視点】 案P16,P17

- 
- SDGs目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）の達成に協働は不可欠
  - 地域全体でESD推進の取り組みを進めていく必要がある
  - 協働のまちづくり条例第4条に基づく責任ある協働の推進

### 【特に力を入れる取組案】

#### **新しい担い手の発掘・育成の継続的アプローチ** 案P20 ,P21

- （新）多世代の市民と企業等が交流できる場を創出し、各視点で地域課題を発見・解決する取り組みを促進する。
- （拡）若者や企業等が地域づくりに主体的に関わる意識を実感できるよう、体験や交流の機会を取り入れた仕組みを整備する。（若者：ボランティアの体験講座、企業等：災害ボランティアネットワークへの参加促進）

#### **コーディネート力の強化** 案P23,P24

- （拡）多様な意見を調整し地域の社会課題に対応するため、職員のコーディネート力を強化する。

#### **情報発信の充実** 案P25

- （拡）市民の興味や関心を引くコンテンツを充実させ、**新たなSNSの活用**により、地域活動への参加を促す。

## 第3次岡山市協働推進計画（概要）

### 【第3次岡山市協働推進計画 体系図】

案P17

#### 【目的】

豊かで活力ある持続可能な地域社会を実現します。  
多様な主体が協働して地域の社会課題解決の取組を行い、

案P18

#### 【基本方針 1】

協働の主体となる新たな担い手を育てるとともに、その活動を支援します

【成果指標】 市民意識調査

- ・地域への市民の参加割合 R6 : 43.3% → R12 : 49.9%
- ・若者(20歳代以下)の参加割合 R6 : 23.3% → R12 : 29.3%

案P22

#### 【基本方針 2】

**活動団体の取組を活性化しつつ、多様な主体の参画を促進し、つながりの場を広げます**

【成果指標】

- ・市民協働推進事業の目標達成 R6 : 75% → R12 : 100%
- ・E S D・市民協働推進センターの相談件数 R6 : 686件 → R12 : 760件 (累計)

案P25

#### 【基本方針 3】

協働の取組を広く情報発信し、市民活動が行いやすい環境をつくれます

【成果指標】

- ・SNSのフォロワー数 R6 : 1,346人 → R12 : 2,066人
- ・市民協働に関する市ホームページの閲覧数 R6 : 723,685 → R12 : 1,480,000 (累計)

案P18～P21

#### 【基本施策 1】

- 1 市民活動団体等への支援
- 2 **地域コミュニティ活動の活性化**
- 3 若者の人材育成と**企業等の参画**

案P22～P24

#### 【基本施策 2】

- 1 協働するための環境の提供
- 2 コーディネート力の**強化**
- 3 **協働を支える組織力の強化**

案P25～P26

#### 【基本施策 3】

- 1 協働に関する普及・啓発
- 2 市民活動団体等や優れた取組の情報発信